

1146
13



狂言彙軌本紀

へ13

1146
13

あ



特
門へ 13
1146
卷

彙軌本紀序

明治十九年
九月廿一日
購

背者司馬仙人登龍門

撥禹穴與天下之豪傑

游作史記本紀方今島

田金谷入大門撥二階

與天下之通人游作彙
軌本紀彼唐人竊語也
此江戸本枝也彼松江
之鱸不如日本橋之初
鯉彼新豐之酒焉及隅

ロ一

田川之諸白乎夫不窮
河源者未睹崑崙不飲
水道水者惡稱所謂大
通者乎中立而不倚通
哉通教訓而不仕彙軌

哉彙軌本紀之名本不
 虛矣ウツナラ因テ染メテ如シヨ在サイ之ノ序シ字ジ
 以テ冠カウムラシ于レ手テ拭ヌグヒ之ノ端ハシ云レ爾
 天テ明メイ甲ケツ辰チン松ソウ王ワウ正テイ月ゲツ
 武ブ部ブ源ゲン藏サウ高カウ第テイ四シ方ホウ

山人書初



景軌本紀序

一圍之木持イノハタモキセンキンノ之物之屋ヨクノ三分ブ

之金求傾城之カ子ハム美矣ビナルヲ嗚呼

東都之盛焉ナルヤ其言テコトヲ儻アケルモ之

亦宜也アヘナリ扶桑橋ニホンバシ之サカサキ魚火イサヒ燦イキ不ハ

遺スキ四ヨ時フユ而ナ靡ナク一ツ匹ヒキモ青ヨシ樓ハラノ

娼ケイ妓セイハ玉メ待ヒキ水ケヨ而ナ靡ナシ一ヒ人モ矣

辱カタシテ以テ永ニ道ト水ヲ為ナシ產ウゲ陽エト

自ヨリ受ヒキ空ニ觀ニト於テ輔シヤチヲ而ナ為タルノ長ヒト之ナリ

德イ者ハ則モ雖イハクニ孰ユクト之ソト曰ラシ貨ニ在ニ

序一

引ヒ為ケ米ヲ以ヤ捐ム自ム心ス子コ株ク平グ不ニ

可シ不レ郷モ良テ也ナ老ロウ子シノ曰ク費ツイ矣ヤス大ト室イキンヲ

若ゴト遺シト小ウカ錢フカ是セウ東ロシ都セウ子ロシ之コ

所マ顯ラハス氣キ情シヤウ也ヲ多コウ以ジン人コウ島ジン田シ

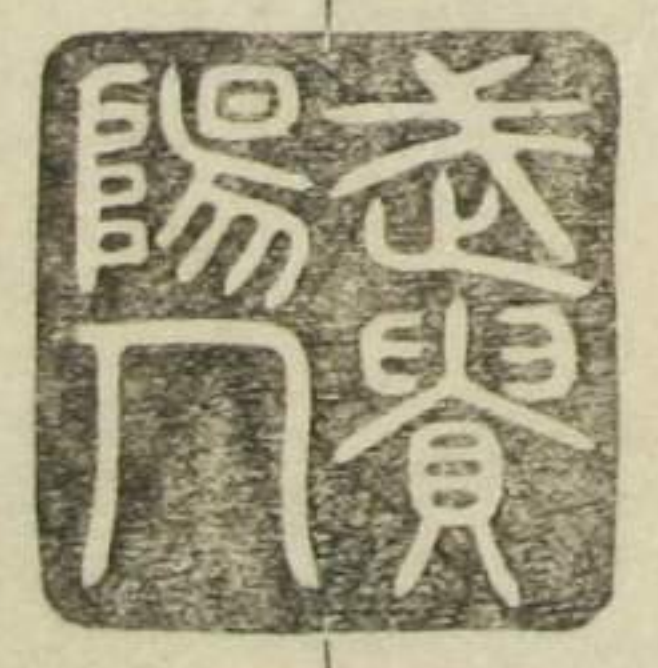
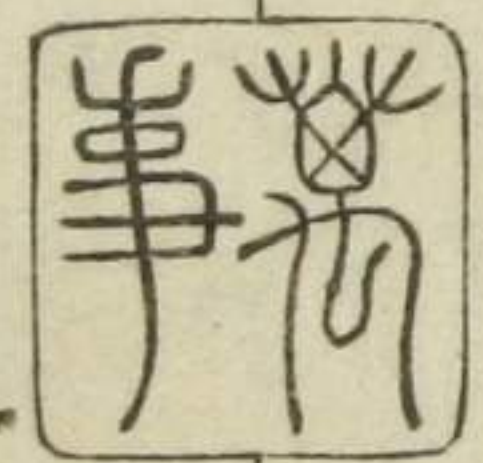
金マ谷ラハス著ハス也ナ景イ輒キ本キ紀キ

一 卷 既 於 於 當 田 河 之 宮 敷
フカムノム子ニ ヲヨソ サガシ アトナ
 後 聰 之 記 於 西 落 以 誌
シラス シヤレヲ カフ
 序 之 余 亦 同 穴 之 務 與
セシラフ モ ムジナ ト
 應 飲 迴 山 之 真 鴉 俱 是
ヨウ シ ユミ カニ ガラス トモニ タレリ
 繼 於 於 同 矣
ツクニ タハ ケフ

上 序 二

天明四年辰歲孟春

口唐 出鳳臺 讓琰撰



あ
あ
あ



よー原北 四才赤る

おーせと

まゝ乃夕々れハ

入おの

続々

あ
あ

あ
あ

狂訓彙軌本紀

雲筑 島田金谷 纂系輯

口唐出 鳳臺 校訂

天照太神素盞鳴尊天津罪

を侵したまひしとを憎ませ

ふまひて。天の岩戸を閉ぢ隠れ

しきりし。天下やみももあふ

り。八百萬乃諸く此神達

太神宮をすくく出奉らん為ふ。

庭燎^{ていりょう}は林火^{りんか}神樂^{かみら}と奏^{そう}て世舞

多^{おほく}りいづれば。岩戸^{いわと}少^{すく}くひきて

御覽^{みらん}くくると記^し。世間^{よこ}のりく

人の面^{おもて}志^し解^げぐと見^みれば。面白^{おもしろ}と

いふと此^{こゝ}時^{とき}起^{おこ}る。まると岩戸^{いわと}を細^こ

目^めの^めの^め規^きより日出度^{ひで}といふ

詞^{ことば}もむじまると。齋^{いひ}藤^{ふじ}俗談^{ぞくだん}を

外^と正^{ただ}しき書^{かき}小載^{せうざい}る所^{ところ}く。今

流行^{りゅうぎょう}乃^の詞^{ことば}。日本^{にっぽん}とくく此^{こゝ}おと

より出^いづる^い。此^{こゝ}面白^{おもしろ}と目出度^{めでたい}と

いふと扶桑^{ふそう}廣^{ひろ}くとくも

東都^{とうと}止^{とど}まる。名^なくく日本橋^{にっぽんばし}乃

下賤 <small>ゲゼン</small> の命 <small>イノチ</small> も如 <small>ごと</small> く買 <small>カ</small> よる何豚販 <small>ナニイブ</small>	東西 <small>トウシ</small> と走 <small>ハ</small> る。鞣 <small>カ</small> を諸侯 <small>シヨウ</small> と奉 <small>ホウ</small> ト。鮐 <small>サ</small>	遠 <small>エン</small> 近 <small>キン</small> に飛 <small>ト</small> 。鞍 <small>ア</small> 鎌 <small>カ</small> ハ珠 <small>シ</small> 王 <small>オウ</small> 子 <small>シ</small> 換 <small>カ</small> す	舌 <small>シ</small> と争 <small>ア</small> ひ。杓 <small>シ</small> 松 <small>ソウ</small> 臭 <small>ク</small> 價 <small>カ</small> 百貫 <small>ヒャククワン</small> と一 <small>イチ</small> と	百 <small>ヒャク</small> かき入 <small>イ</small> るの唐 <small>カウ</small> 音 <small>オン</small> ハ狂 <small>キヤウ</small> 子 <small>シ</small> 吵 <small>シヤウ</small> ふ卷 <small>マキ</small>	らず日 <small>ヒ</small> と千金 <small>チンギン</small> を商 <small>カ</small> ひ。婦 <small>メ</small> りかき入 <small>イ</small> る	側 <small>サ</small> 臭 <small>ク</small> 店 <small>テン</small> 軒 <small>ケン</small> を東 <small>トウ</small> と西 <small>シ</small> 四時 <small>シヨウジ</small> と <small>カ</small> る
--	---	--	---	--	---	--

食^く屋^や乃^の塵^{ちん}。棒^{ぼう}千^{せん}振^ひハ生^{なま}籟^{さい}銜^{けん}の
 奠^い以^い售^うと妻^{さい}子^しと峯^{やま}食^く人^{にん}物^{ぶつ}活^{かつ}
 とと勢^{せい}昇^{しょう}天^{てん}の龍^{りゆう}乃^の如^{ごと}二^に合^が
 五^ご夕^{しゆ}如^{ごと}酒^{しゆ}と醉^{すい}と源^{げん}ハと闘^{たう}
 諱^{ごん}と名^な六^{ろく}親^{しん}分^{ぶん}系^{けい}未^み訣^{けつ}と制^{せい}すハ
 雙^{そう}方^{ほう}口^{くち}と閉^とと止^やむ和^わ睦^{むつ}の河^か漏^{ろう}
 ぬるまの異^い客^{かく}前^{ぜん}世^せと殷^{いん}勤^{きん}なり。

さんちくくは焼灯と西國橋より
長く納太刀を梁より大あり
あんなまのふん佛乃大音のハ佛も
耳と寒くは六根清淨の驥劇ハ
不動も送上す有く林は天万度
乃振や張込大平多親分の流
義と修小遠意延引の間達光

初先目乃無片言生よりよく困す
仙の字は手杖半顔とばく糸は
禪を風を翻る般若の面女の首
の入癩乱鬚長髪ハ仲間了總
あり。相傳ハ顔見世の積也扇屋
が蒸籠らんびの空樽大路と山と
あ。若者中乃張杖帳屋が筆

跡^{あと}見^み事^{こと}あり。糸^{いと}手^て拭^{ぬぐ}を
木^き戸^ど銭^{せん}と^とう^うす^すま^まて^てし^して^てら^らの^の手^て
梅^{うめ}子^こ近^{ちか}隣^{りん}の^の響^{ひび}き^きを^を鳴^な雷^{らい}と^と何^{なに}や
ま^まる^る。木^き戸^ど番^{ばん}海^{かい}老^{らう}藏^{ざう}仕^し着^きと^とお
留^{とど}場^ばを^をハ^ハの^のま^まり^り立^た花^{はな}道^{みち}と^と歩^あ
行^いき^き棧^{せき}敷^{しき}の^の裏^{うら}人^{ひと}と^とま^まる^る。又^{また}り^り山^{さん}
人^{ひと}中^{ちゆう}と^と割^{わり}て^て山^{さん}々^々年^{ねん}乃^の客^{きやく}と^とま^まり^り以^も

あ^あま^ま新^{あらた}山^{やま}家^ける^る體^{たい}に^に痣^{あざ}嚙^かみ^みけ
張^{はり}あ^あみ^み口^{くち}紅^{べに}の^のま^まり^りと^と生^なふ^ふ。太^{たい}
内^{うち}簾^{すだ}の^の綿^{わた}帽^{ぼう}子^こも^も降^ふ積^つむ^む雪^{ゆき}う
と^と疑^{うたが}も^も五^ご間^{かん}纏^{ちん}め^め黒^{くろ}仕^し立^た西^{さい}落^{らく}
止^や時^{まじ}あ^あく^く向^{むか}表^へる^る。羽^は屋^や々^々折^お南^{なん}鏡^{きやう}
二^に片^ぺと^と以^もて^てあ^あま^まの^の柏^{かしわ}子^こ木^き
聚^あ客^{きやく}各^{かく}色^{しき}々^々と^と直^{ちよく}に^に口^{くち}土^{つち}さ^さる^る。4

漸へず。首希^ひ下^げ。紫^{むらさき}子^こ。竹^{たけ}當^あの
箸^{はし}を^を扱^あ多^た響^{ひび}の^の一^い音^{おと}。吉^{きち}例^{れい}の^の角^{かく}響^{ひび}
主^{しゅ}膳^{ぜん}が^が上^{かみ}瑠^る理^りを^を。柳^{やなぎ}子^こ乃^の吹^ふる^る小^こ異^い
あ^あく^く寸^{すん}立^た出^でる^る柿^{かき}乃^の素^す袍^{ほう}被^ひつ^つと
し^し多^た花^{はな}道^{みち}に^に至^{いた}り^り。輿^{こし}言^{こと}る^る旅^{りょ}
異^い口^{くち}同^{どう}音^{おん}。く^くし^しと^と積^つり^り。さ^さる^る蒸^{せい}。す^す前^{ぜん}
乃^の山^{やま}に^に響^{ひび}く^く。年^{とし}々^々。歳^{さい}々^々。お^おき^きり^り。ゆ

花^{はな}相^{あい}似^に。り。打^{うち}驚^{おどろ}く^く。敵^{たて}役^{やく}臆^{おそ}し
と^と進^{すす}む^む。と^と能^{あた}り^り。守^{まも}り^り。お^おと^と守^{まも}り^り。
巾^{きん}地^ぢ乃^の冠^{かん}ハ^ハ天^{てん}幸^{きょう}も^も益^{えき}さ^さが^がと^とく。
姫^{ひめ}君^{きみ}の^の危^{あや}難^{なん}を^を救^{すく}ひ^ひ奉^{ほう}ま^ま。一^{いっ}万^{まん}の
下^{した}に^に首^{くび}百^{ひゃく}汲^{くみ}と^と伐^きる^る大^{おほ}き^き。お^お裁^{さい}
東^{とう}都^との^の親^{おや}玉^{たま}株^{かき}所^{ところ}を^をさ^さる^るハ^ハ百
ハ^ハ街^{まち}風^{ふう}来^{らい}散^{さん}久^く也^や。と^と評^{ひやう}し^し。

彼が氣象と云ふは秘蔵ハ昔時の
傑足下と今日の間奇あまふ
市川の藝術鳴呼はがもま。獨
こゝろを鏡と鼓バ儂子浪華は
客阿りあつとて曰。出る傑の
東都自慢を上る。我阿ると阿
當世流俗するも何く我答

曰。其一二と擧て云バ。三件敷系親
和染。初日茶とび色大石縞短
差。長羽織因果地藏之富の杜巢立
妓者。子打何偏画艸帝西落本風
紐笛吹拵。女医有土。西面ること
豆藏の如。亦向今侯華小狂歌
專一行る。東。可。答

四方赤良朱 珠 橋洲平
原屋東作 網智惠の
其外河加抄 かく 謝讚
解庵 獨庵 木犀庵 獅子眠と始也。
是まゝ云も抄さす也。画州帝の
作者ハバク。喜三三春 芝全
此三子と手と寸。上留理の力

ろろろ。外先生没て後。紀の
上太郎。兵治 萬象 貫四 揚黛
眼と云々。初相言ハ。次助重助
専助馬雲。河竹金井を休かぬ。
云おろろ。傳世画ハ。花監春章
清長 湖龍 磨
有 食 類

とらお小

屋六欲

屋。葛西土師工大

屋浮瀬枕

山藤庵。樂庵百。四季庵の四季

おろくお献立。善おび美お

をり。客是とやつてまを打て曰

恐ろおまを東都の盛ある

他邦の及所と非。長袖能蘇

又錢能高の大都。華の肩と

あゝ庵んとい虫のよたの甚

か。願を先生。後子青樓の

曲と辯。余故郷。帰と

早く童。僕。傳。再。東都小

来。扇。屋。乃。天井。見。さ。ら。お

一助とを。空。飛。子。應。と

燭草四ふ　くを食ひて。又味増と
 喫て曰。其其磧磧而不窺玉淵
 者未知驢龍之所蟠也。お系ト水
 道の流を食ども俗中ニ六ふ
 ばいまど通のちるゝあかゝとま
 ず。余長命ろろ多一一世の形勢
 を見多々。母の胎内成出る乳

汁を食ひ。おまろ坊松とあひ
 ても。鳥飼が羊羹を甘し目
 暮り會殘魚を食ひて一徒に
 止時あく。下稚が天顛を木奥
 を敷ふ小箒し。乳母が結立乃
 髪ををむしる。ある声四遊を驚
 一。躑躅。一。埃ま。二代大々

おほい。采、太郎へ下、杖と走
し。お長、恋ぬらぬ。と、鍬の
天神と。嵐の、婿入の、牝、双、帝と
を取、来、坊、様、と、獻、す、二、品、と
投、出、し、是、で、を、お、み、と、お、み、
こと、己、前、と、培、す。伴、頭、が、口、小、言
紛、々、と、し、て、自、身、之、人、形、丁、へ

至、す。角、力、取、の、木、俵、と、買、ふ
俵、来、つ、ま、ま、坊、様、小、敷、す、漸
寛、尔、と、し、床、の、間、へ、か、ざ、し、
長、恋、を、相、手、と、し、と、喜、氣、満
面、と、な、ぶ。父、母、お、ま、を、見、て、涎
を、流、し、戲、場、事、の、な、や、り、ある
代、裏、は、な、と、喜、み、傳、へ、お、ま、を、お、

と小栗殿の馬に如く。父母是
に乘りし。又めとを傳へし
駿劇とゆるす。昔薄刀ハ
の間と塞き。画草帛長持
餘る長松買も。錢と掠
る。飴棒とちり。大轉連
糖の下昇と至る。易傳

鼻唄。梅廣。大をけり。あまハ
手。下。伊之助。か。ゆ。せ。坊様の
御氣。入。り。傍輩。と。必
寸。髪置袴着の御祝儀。大凡
越後屋と来。錦繡と賣。
定紋を俗。と。當日。明神
壽乃文字。と。継。せ。當日。明神

諧カキ之イ密ミ之シ往キ来キ乃ハ評ヒ判ハをス。
俤ク之ニ味ミ曾セを上とス。火ヒ乃ハ具ク。
櫓ヲ之ニ高ク。乳ウ母メ乃ハ鼻ハ天ト狗ノ之ニ。
倍ハ寸ハ八ハ歳ハ乃ハ頃ハ義ハ之ニ流ハのハ華ハ道ハ。
を以字ハバセ。四ハ書ハ乃ハ素ハ讀ハもスまマ。
がヲ示シ。唐ハ詩ハ選ハとハ太ハ平ハ乃ハ坊ハ。
様ハのハ幼ハ号ハハハ西ハ風ハ乃ハ吹ハ散ハトハ。輕ハ。

薄ハ子ハ来ハ乃ハ之ニ。吾ハ且ハ那ハとハ稱ハ才ハ髮ハハ。
頭ハ上ハ之ニ曲ハ。羽ハ織ハ乃ハ地ハをハ拂ハワス。
長ハくハ。自ハ讚ハトハ曰ハ。匪ハ直ハ也ハ。人ハ乘ハ。
心ハ塞ハ洲ハとハ。野ハ暮ハをハ見ハるハことハ上ハ。
野ハ乃ハ下ハ谷ハをハ見ハるハがハ如ハくハ。此ハ茶ハをハ。
千ハ家ハをハ土ハ乃ハ之ニ。俳ハ諧ハ乃ハ和ハ泉ハ街ハハ。
土ハ乃ハ之ニ。百ハ韻ハ一ハ集ハもハ甘ハ也ハ。

斗しうぶもも叢さうくも諸集しよしふに載のるを。
 十しう有ゆう五ごよりしてしめめるる御出入おんしゆしゆの
 卜う庵あん老らうとと深川ふかがわの土橋つちばしとといいふふ。
 午う申しん、律りつの調子てうしとと乘のり息いき劇げきする
 こと甚しんくく。娼妓かうき役者やくしやとと通とする
 妙めう楽らく亦またやととままつつぎぎ。お先おさきととつつりり可か
 ぬぬこと三年さんねん。牽頭けんとう持もちの不ふ風流ふうりゆう

苦くい者ものの生な存ぞん在ざい。船頭せんとうハ諸侯しよこう
 乃な如ごとく容ゆる多た倍ばい臣しんとと等ひとしくく言ことさん
 源げんさんとと舌した長ながあり。おててるるさんお
 まま川がわさん乃な割床わりど新川しんがわの義ぎ兵衛べいゑ
 と隣となりり。終夜しゆや悪口あくぐち乃な卷物まきもの銭せん
 舌したくく口ぐち談だんあるる喧嘩けんかあるる奴やつ
 更さらにに分わかるる。ハ幡はた乃な鐘かね声こゑ耳みみと

舞^マに。崩^タしく形容^{ケイヨウ}を正^{ただ}し深^{フカ}川^{カハ}
出^デてさん橋^{サンバシ}を多^タくハ。娼^{カウ}婦^フ漸^{シブ}
送^{オク}ッ。吉^{ヨシ}さん此^{ココ}間^マ之^ノ一^{ヒト}句^クハ
し。事^{コト}を。對^{たい}面^{めん}情^{じやう}あるふと
淡^{たん}く。早^{はや}なる。系^{けい}深^{ふか}川^{カハ}乃^{なり}
遊^{あそ}び。檜^{ひの}木^の舞^ま臺^{たい}と踏^ふずんバ
迷^{まよ}ひ。汚^お躰^たと魚^{まぬ}を。ずと。叢^{そう}明^{めい}

し。一日^{いちにち}知^ち己^{おのれ}相^あ伴^い。青^{あお}樓^{ろう}々^々
至^{いた}る。中^{ちゆう}之^ノ街^{まち}。一^{いち}。沽^か枝^し酒^{しゆ}と
嚙^かして。洒^{しや}落^{らく}。と。救^{すく}刻^く容^{よう}と
具^ぐ々^々相^あ集^{じふ}。徒^とハ。蘭^{らん}爾^に東^{とう}
五^ご調^{てう}嘉^か隆^{りゆう}目^め吉^{きち}藤^{とう}兵^{べい}衛^ゑ等^{とう}。空^{くう}ハ
百^{ひやく}とあ。大^{だい}声^{せい}笑^{せう}語^ご。盛^{せい}々^々
ゆり。茲^{こゝ}小^{せう}旅^{りょ}。塊^{かたまり}々^々。め々^{めめ}宿^{しゆく}

替寸。官終つて。娼家へ至る。六
窓。くる老。乱。婢。始。くる。雛。婦。琴
を。彈。弦。を。鳴。して。館。中。塵。埃。を
拂。い。お。よ。い。あ。ん。い。馬。鹿。の。の
廓。言。ハ。十。寸。見。ガ。曲。声。と。争。い。高
樓。銀。燭。の。光。を。白。盆。の。お。と。く
並。立。くる。臺。の。も。よ。い。上。坐。上。り。す。

十八

島。何。さ。う。と。疑。る。食。類。を。標。三
舛。屋。が。風。流。を。志。す。い。酒。の。清。繁
乃。下。流。を。汲。む。鑿。手。を。下。鑿。す。
盆。樓。を。多。く。さ。す。向。僕。を。雛。婦。の
探。索。哉。戒。を。閨。中。綾。羅。の。三。つ
め。も。ん。金。盆。ハ。雪。舟。探。幽。と。雲
上。あり。客。小。使。者。あ。く。傾。城。す。

鄙俗ひんじやくはく。濱街ひんがい先生せんせいの筆意ひついを
學まなび唐机たうきと和漢わかんの書しよを飾くそ
王章わうしやう怯けい々けい温わんく和わく
諸しよる伴頭ばんとう雛妓ひなぎ小任せうにん寸調度用しゆんてうどよう
物ものの價あひと志し々し孔方くわう如に枚量まいりやうも
志し々し是ぜいと性惡しやうあくの奥様おくさま小
たたととめめてて知る深川ふかがわの夷狄いひてき

あること。或ある只ただの人の異具いぎを曰いふ。
傾城けいじやうと誠まことあり。鶏卵たひまごの方かたある
あり。若わ此この両品りやうひんののバ。晦日みそひの魁かゑを
月つき々つき出ると。あまは俗徒じやくとの談だんををりて。
いまど娼婦しやうふと真まことあるは證あかしと見
ざる故ゆゑかり。古語こご曰いふ。臨困りんこん而を羨魚せんぎよ
ヲ知し退ひき而を結網けつかうされの真偽まゐと論ろん

ぞんよりま。己が傾城を去るす
おちあきと慚^{あは}む。又謂^い傾城
と誠^{まこと}が何^{なに}も運^つ乃^のおと。俳諧^{はいかい}小
いへる。どく。伴頭^{ばんとう}を顧^{かへ}らば傾城
と疎^{とほ}く。傾城^{かたむね}と親^{かた}かんとす。は
家^{いへ}おさまる。ず。あは。是^{こゝ}あること
か。あ。非^ひや。非^ひを非^ひとす。つ。非^ひを

あま。傾城^{かたむね}乃^の誠^{まこと}心^{こころ}を見^みらばあり。
商人^{しやうじん}の金^{かね}を出^だし。物^{もの}を買^かひ。あ
錢^{かね}の儲^{たくわ}を土^{つち}にばあり。其^{その}まきと
ふ。とあつ。と。是^{こゝ}一^{いつ}あり。更^{さら}を
鉦^{かね}者^{しや}と譏^{あざわ}む。お。は。海^{うみ}の
最^{さい}上^{じやう}青^{あお}ろ。の。た。の。ん。智^ち者^{しや}とあり
愚^ぐ者^{しや}とあり。通^{とほ}とあり。野^の暮^{くれ}と

おま

あちも何や正ふ金乃多少
益翼而能飛益足而久行ヤツサ
コラサの二百サ。猪牙ハ船州のそふ
まり付。せめ来るなりとれ山とる
ぬく金く。名廣れ會。力勺乃席
河内屋が高ろうかみくお
お羽織と見てハ戴さ山とる人

十八

おま

おまを歌一おまをるを見を樂
こけりくしくまくの棧敷影尺世
乃けくいとれやと雲とや暗雲小
驕る而乃ら小身上散く廣く
ある。忠臣ハ退き任臣ハ息子
田舎と熱一。地面ハ野暮く被令
各胸中甚高くべんそ蘇秦張義

伐欺^ヒ子。松^{マツ}多^タ周^{シウ}公^{コウ}呂^リ望^{シヤウ}之^ノ越^{ツク}善^ニ
之^レ邪^ヤ正^シ暗^{アン}明^{メイ}之^レ白^{ハク}乃^チ理^リをよ^ク
知^ル之^レも。行^ハくち^チ文^{モン}盲^{マウ}乃^チ人^ニより
も非^ヒ也。武^ブ士^シ化^ケし^テ宗^{ソウ}匠^{シヤウ}と^モあ^リ。至^シ
商人^{シヤウジン}へん^ドて居^ル候^{キウ}と^モあ^リ。千^チ柳^{リウ}が
前^{マヘ}句^クと^モ曰^フ。掛^ケ人^ニむ^クし^テと^モい^ハく^トも^シ
た^ラむ^クと。相^{アヒ}あ^ハり^テは^リ是^レ憎^ム恨^ム口^コ

おいまご止^トま^リら^ズ故^レあり。先^マ人^ニ馬^バ
鹿^カ百^{ヒャク}韻^{イン}と^モ作^スる^ニ尻^{シラ}を^モす^ヘめ。近^{チカ}ハ
宝^{ホウ}井^シ大^{ダイ}通^{ツウ}山^{サン}入^ニを^モち^テ品^{シヤウ}川^{ケン}を^モち^テ
ち^チる^ニ等^{トウ}と^モ系^{ケイ}領^{リョウ}乃^チ達^{タク}者^{シャ}より^テ起^ルる。
奥^{オク}街^{ガイ}爺^ヤ老^{ラウ}没^{ボツ}し^テ助^ス六^{ロク}乃^チ初^{ハツ}日^{ニチ}寂^{シヤク}
しく。大^{ダイ}山^{サン}代^{ダイ}叅^{サイ}乃^チ咄^{トウ}も^チか^サず。功^{コウ}成^{テイ}
各^{オノオノ}遂^{スズ}て身^ミ退^{タイ}く輩^{ハイ}。物^{モノ}犯^{ハン}の油^ユの

香と忘れ。清次が本田もひと
昔の噂とある。惜哉東都各物の
衰とあること。半太夫がくおああそれ
野呂間再創る。土佐外記の二流を
知る人希あり。願を夷秋乃曲と
避す。一口も東都節の雅言口
字ある。愈いと寒夜と大肌と腕と

三件お手拭と巻とてい
ぎ世話と焼栗の杜撰お呵と
遊栗追栗のふん誤白云爾

百五

尋常軌本紀跋

孟晋須すふふ華人こじんの詞ことば

曰い居まハな氣き瓜う梅ばい春しゅん画がハな情じやう紙し

寫う寸すん凡おん大だい凡おんの天下てんか

三さんツつ西せい京きやう堂どう塔たつ伽が藍らんのり

七

浪なみ花はな凡おん交かう易い運うん遭そう何なに智ち惠ゑ

と瞻せん氣き凡おん至し凡おん東とう都とと陳ちん

とまな何なに國こく凡おん乃の凡おん也や吾わ友ゆう

島しま田た金きん苔こけ子し具ぐ江かう都との

中ちゆう央おう凡おん乃の凡おん也や生せい一いつ凡おん也や

おへ性根しやうこんの七歩しちふ成進じやうじんめ後へ
 野狐まごの七歩しちふ成退じやうたい死し難陀なんだが口
 くり西落しやうらく成吐じやうと跋陀はつだが口よま
 自慢じまん成吐じやうと武藏野むざうのの系けい成腹じやうぶく
 富士ふじが山やまと準じゆん少すくなり。

聰明しやうめい獻智けんちいよの承知じやうち生せいれ身み
 る智恵ちえの甲折かうせつ玄索げんさく頭かぶ末すえ社しゃり
 育そだられ具丈ぐぢやう三万さんまん二に千せん丈ぢやうの成なり
 の老翁らうおう子こ三万さんまん二に千せん丈ぢやうの成なり放屁はつぺい儒にゆ
 有あり誤ごりり。まあても長ながサぬ智ち

恵の海^{すまひ} 碇^{すまひ} 杖^{かぢ} 敷^{かぢ} ヲハ^は 一^{ひと} 勺^{すく} と^と 介^か り。

毛^{すけ} 杖^{かぢ} 摺^す れ^れ ハ^ハ 一^{ひと} 卓^た と^と 介^か り。免^{めん} 成^{せい}

角^{かく} 介^か り^り 瓢^{ひょう} ガ^ガ 一^{ひと} 介^か り^り と^と 介^か り^り 人^{ひと}。

有^{あり} 雑^{ざつ} 少^{せう} 々^々 拾^{しつ} 人^{ひと} ぐ^ぐ 川^{かわ} と^と 鶴^{つる} 飲^{いん}

の玉^{たま} 川^{かわ} 鮎^{あゆ} 水^{すい} 道^{みち} の水^{みづ} のそ^そ れ^れ ナ^ナ ン

たしと

と^と や^や し^し 平^{へい} 原^{げん} 屋^や 東^{とう} 北^{きた} 葦^{あし}

と^と 酪^か 酏^い の中^{なかつ} と^と 揮^か 小^{せう}

天^{てん} 明^{めい} 之^之 炭^{たん} 并^{へい} 上^{じやう} 歳^{さい} 春^{しゆん} ぬ^ぬ ぬ

く^く ぬ^ぬ ぬ^ぬ 日^{にち}



魚いんや

白跋

清せい盆ひんハ昔むかし小樂せうらく一ひと隅ぐま富ふハ常つねリ
患うれハハ往こい昔むかし老夫らうふう山やまハ紫むらさ川がは使つか者もの
川がはハ洗せん濯じやくするの雨あめ代しろリ天あまは
棒ぼう上うへへそくふるは定じやう矩こリ何なにも
貧ひん者ものハ甘あま塩しほのやんまじ貴たかし家いえ者もの
ハ鋪ふのこぞ長なが壽じゆかりとサヤ一ひと味あじ

九七

の米こめハ追おれて腹はら中ちゆうハまじく百ひゃく練れん
の葉は扇せんハなつそく然しかは成なりす
豈あやたのうア多おほ者ものリ何なにんや
古こ語ごハ常つね命いのちリ何なに川がはハ所ところハ
山やまハ紫むらさ川がは老らう夫ふう川がはハせんかく一ひと枕まくら
た即すなはち鬼おにガ客きやくへ瀝れきハ美み者ものハ
不ふ及およぶ一ひと第だい一いちハ

形多様可一之綴綴一守化よ
知ずし之怪誕の書獲れし此言
の外り至し綴綴一守化よ
此多様可一之綴綴一守化よ
絶ハ金く紙紙進し非ボク
正見ニ紙紙中し以て其高の
つまらざる紙紙一此は世界

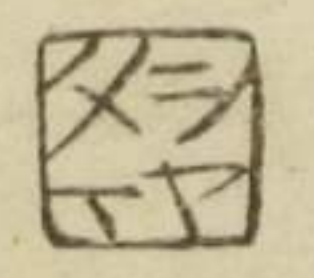
の息あらし見せ居候の難を免
し紙紙一守化よ
守化よ
守化よ
守化よ
守化よ
守化よ
守化よ

三
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

志
の
り

三
五
甲
辰
柴
木
子
考
中
司

島田金谷述





金谷

永年

...

...

